LINE 上の初級日本語学習者と日本語母語話者間の会話分析

――リペアを中心に――

スワンナクート・パッチャラーパン（筑波大学大学院修了）

要　旨

本研究では、LINE のチャットを対象に、リペアを中心に会話分析を行い、LINE の会話の特徴を分析し、日本語教育への貢献を考察した。調査は、日本語母語話者 3 名およびタイ人日本語学習者 3 名を対象にし、３グループを設け、３か月間、自由会話を依頼した。会話を観察した結果、機能の制約上、順番取り、行為連鎖のシステムは、複数の会話が同時に行われるなどの特徴があった。また、リペアへの参加にどのような学習効果があるかについて考察した結果、リペアを学習活動から見ると、学習者は各タイプのリペアに参加し、それによって、言語を上達させることができ、会話に積極的に参加すれば、母語話者からの助けも受け取ることができることが分かった。

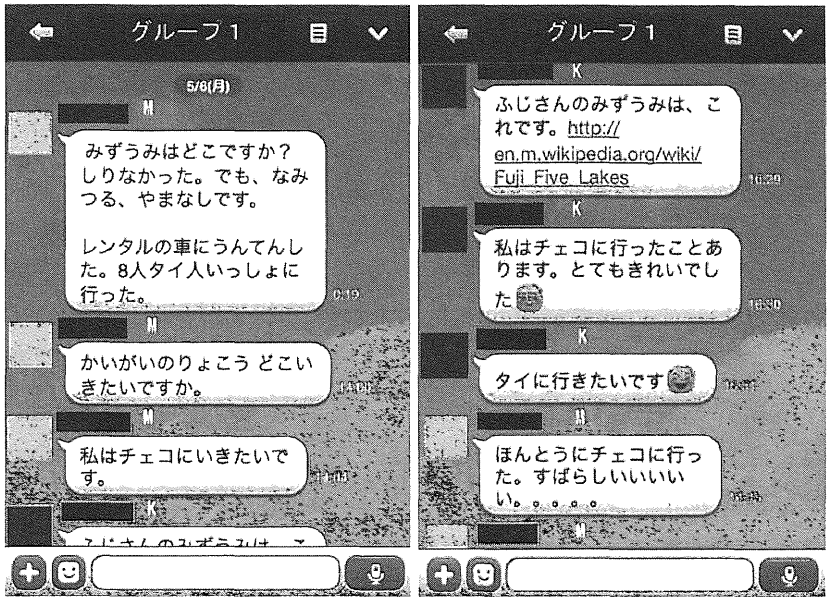
キーワード：会話分析、リペア、会話の自己モニター

1. はじめに

1.1. LINE について

スマートフォンの普及につれ、無料通話・無料メールのアプリケーションの利用者も増えてきている。中でも、LINE というツールは若者を中心に人気が集まっている。言語学習者がパソコンのチャットで母語話者とチャットで会話する場合、顔を合わせて会話するより負担が少ないと述べた先行研究がある（松井, 2004）。しかし、パソコンのチャットは時間を決めなければならなく、対面しなくても、相手はパソコンの前で返答を期待しているため、不安を感じることがある。LINE の場合は、時間や場所の制限がないため、日本語母語話者や学習者の都合のいい時間に、返答をすることができる。LINE の特徴は、図 1 に見られるように、時間帯が離れていてもメッセージが同じ画面に表示され、リンクの掲載、絵文字の使用なども見られる。他にも画像やスタンプの送信も LINE の特徴である。このような特徴を有効に扱えば、日本語教育へなんらかの貢献ができると考える。

〔図１〕LINE 上の会話



1.2. リペアについて

会話分析(Conversation Analysis:CA)の観点では、リペア（修復）とは発話産出、聞き取り、理解することにおいて何かのトラブルがあった場合、それを解決する相互行為的な作業を言う。言語の誤用訂正、トラブルの置き換え、言葉探し、理解の確認、説明の要求も含まれている。リペアの基本概念は以下のとおりである。

Trouble Source（以下、TS）	：問題化されるもの、トラブル源、リペアを開始する発話のリペア対象となる発話
Repair initiation（以下、RI）	：リペアの開始、リペアの開始技法が用いられた発話
Repair Execution（以下、RE）	：リペアの実行・完了、リペアの開始に後続し、リペアの話者の抱えるトラブルを解消しようとする発話

サックス（2010）によると、リペアは、TS を発生した発話者を【自己】、そうでない発話者を【他者】とし、【自己開始・自己修復】【自己開始・他者修復】【他者開始・自己修復】【他者開始・他者修復】という４つのタイプに分かれる。

【自己開始・自己修復】は TS を発した人が自分で開始して、自分でリペアを行う種類である。【自己開始・他者修復】は TS を発した人が自分で開始して、他者が代わりにリペアを行い、【他者開始・自己修復】は TS を発していない人が開始し、TS を発した人がリペアを行うタイプである。最後に、【他者開始・他者修復】は他者が開始し、他者がリペアを行う種類を言う。

2. 研究課題

本研究では、会話分析の手法を利用し、リペアを中心に、日本語学習者と日本語母語話者の LINE 上のチャットを分析する。研究課題は、以下のとおり設定する。

課題Ⅰ　LINE 上の会話はどのような特徴があるか、リペアを中心に分析する。

課題Ⅱ　LINE 上のリペアと実際の会話のリペアの相違点を考察する。

課題Ⅲ　LINE を使用した場合の日本語学習への有効性を考察する。

3. 先行研究

チャットの会話分析の先行研究は González-Lloret（2011）が挙げられる。González-Lloret は Yahoo! Messenger を使用し、トラブルトークを取り上げ、スペイン語学習者がどのようにスペイン語母語話者と会話に参加しているかを 8 週間にわたって継続的に観察した。その結果、普通の会話と異なり、行為連鎖や順番取りシステムが非常に複雑であることが明らかになった。トラブルトークについては、チャット開始後間もなくのところ、母語話者にトラブルトークを話されても、学習者はそれに反応しないが、時間がたつと、反応できるようになった。

日本語学習に注目した細田（2003）はリペアによる日本語学習者と母語話者の学習成立を記述している。細田は会話分析の手法を用い、第二言語学習が母語話者と非母語話者の日常コミュニケーションの中でいかにして達成されていくかを分析した。その結果、両者が問題点に志向すると、友人関係であるものの、日本語母語話者が教室外の教師の役割を演じ、日本語学習者の問題を修復しようとする試みが見られた。

チャットを対象に行った先行研究を見ると、チャットは学習を促すことができることが分かった。しかし、これまでの研究はすべてパソコンのチャットであり、スマートフォンのアプリケーションにおけるチャットを対象にした研究はまだ見られない。メディアが変わっている現在、MSN Messenger のようなパソコンのチャットも既にサービスを終了し、最新のモバイルアプリケーションが代わりに人気になってきたため、このようなアプリケーションを対象に言語の研究を行う必要があると考えられる。そこで、本研究では、LINE を取り上げ、リペアを中心に、会話分析を行う。

4. 調査概要

本研究では、日本語母語話者 3 名およびタイ人日本語学習者 3 名を対象にし、チャットグループを設け、2013 年 5 月から 7 月にかけて、3 か月間、継続的に自由会話を依頼した。タイ人日本語学習者に関しては、筑波大学に留学している初級日本語学習者であり、20 代が 2 名で、30 代が 1 名である。2 名のタイ人日本語学習者が理系の研究室に属している大学院生であり、1 名が短期で留学している。日本語母語話者は大学院生が 2 名で、会社員が 1 名であり、3 人とも 20 代である。すべての対象者は女性である。日本語学習者 1 名と日本語母語話者 1 名にペアになってもらい、3 つの研究対象ペアを設けた。ペアになった日本語学習者と日本語母語話者はチャットルームで初めて知り合い、実験期間中は会うことを控えてもらった。その理由として、顔を合わせると、話すのが苦手になったりするなど、LINE 上の会話も異なる方向になる可能性があるのではないかと考えたためである。

それから、日常会話では身振り手振りのような非言語的な行動に頼ることも多い。そのため、本研究では、そのようなものに頼らずに、LINE 媒体のみで、話を展開してもらうよう設定した。対象者のグループ、名前、母語、年代、性別については以下の表１にまとめる。

〔表１〕対象者の背景

グループ	名前	母語	年代	性別	職業
1	M	タイ語	30	女	短期留学生
	K	日本語	20	女	大学院生
2	P	タイ語	20	女	大学院生
	S	日本語	20	女	大学院生
3	D	タイ語	20	女	大学院生
	A	日本語	20	女	社会人

会話分析の手法で研究する場合、日常会話の録音か録画したデータが必要となってくる。データが収集できたら、繰り返しそれを聞いて、文字化作業を行い、分析用のトランスクリプトを作成しなければならない。

しかし、本研究では以上のような作業を行う必要がなかった。チャットルームにある「トーク設定」のメニューに「トーク履歴を送信」というボタンを押し、対象者が話したメッセージを電子メールに送信した。データはテクストファイルとして送られてきたが、グループ別にファイルを保存し、そのデータを対象に分析を行う。本研究のデータは文字化の作業を行わずに、送信の機能によって作られたものであるため、集まった生のデータに近いと考えられる。

5. 結果

3ヶ月間にわたって、673 件の送信が集まった。会話を観察した結果、LINE 上のチャットの会話の順番取りシステムは普通の会話と異なり、1 人ずつのメッセージが現れる設定になっており、即時の返答も期待されない。音声や重なりで次の話者を選択するという概念がないため、同じ話者が続けて送信することが見られる。行為連鎖については、隣接ペアはほとんど条件に満たされているが、あいさつなどが返されていない場合もあり、優先性がない返答もある。これは、話題が複雑に絡んでいるためだと考えられる。

リペアを詳しく見てみると、収集したデータより 47 例のリペアを抽出することができた。収集したデータには４つのリペアがすべて見られた。【自己開始・自己修復】のタイプのリペア数が一番多く、19 件であり、全体の 50 パーセント近くになる。次に多いタイプは【他者開始・自己修復】であり、13 件である。【他者開始・他者修復】のタイプが３番目に多

く、11 件である。一番少ないタイプは【自己開始・他者修復】のタイプで、わずか４件のみである。各タイプのリペア数は以下の表２にまとめる。

〔表２〕タイプ別のリペア数

タイプ	リペア数（件）
自己開始・自己修復	19
自己開始・他者修復	4
他者開始・自己修復	11
他者開始・他者修復	13
合計	47

以下、順番に各タイプのリペアの例を見て、TS、リペアの開始、リペアの実行を確認する。なお、リペアに関する部分は太字で示す。

（1）【自己開始・自己修復】

2013/06/24(月)

1　13:06　D　九月タイにかえりたいです。でも、実験がたくさんあります。 (がーん)

2　13:10　D　ともだちの結婚式行きたいです。 私の**加速**も会いたいです。 (うれしい)

3　13:12　D　"ああ~ すみません。
家族です。>> **加速**じゃないです。"

この会話では D が帰国について語っているが、D が２ライン目に「加速」と書き間違える。その間違いに気づいて、２分後に３ライン目に TS を発した D が「家族」と言い直している。その際、記号「＞＞」を使い、前の送信に間違えた「加速」も一緒に書き、前の言葉が間違えていることを示している。リペアは TS を発した D によって開始され、そして同じ D に実行されることが分かった。

（2）【自己開始・他者修復】

2013/05/07(火)

1　16:58M　"タイのりょうりがからいです。
K は辛い食べ物を食べられるか。"

2　21:33K　かんこくにいったとき、がんばって辛いものをたべました
(きゅん)タイのりょうりは、かんこくよりからいですか?あじがちがいますか?

2013/05/08(水)

3　09:57M　はい、タイのりょうりよりからいかんこくです。

4　09:59M　(ただしいですか)

5　12:40K　「かんこくのりょうりは、タイのりょうりよりからいです」

か？

6　12:41K　　わたしはゾウにのりたいです(目)タイでできますか？

7　12:45M　　"ゾウですか(^O^)

できます。でも私はのりませんでした。"

8　13:25M　　かんこくとタイもうからいです。たぶんおんなじです。

Mはライン目に「タイのりょうりよりからいかんかく」のようにKの2ライン目の質問に答えている。その答えに自信がないかのように丸括弧をつけて、次の順番に「ただしいですか」と聞いて、リペアを開始する。Kは数時間後、括弧をつけて、Mの言葉を直して、確認という形で文を終わらせている。このリペアはトラブルを発生したMによって開始され、他者であるKによって修復されているのである。

(3)【他者開始・自己修復】

2013/06/24(月)

1　10:42K　　きのうのよる、**へんなおとこ**がいました!!Mさんもきをつけ

てください

2　10:42K　　私はまだこわいです(もうやだ)

3　11:44M　　いみは**わるいひと**ですか。

4　11:49K　　はい、**変態(へんたい)pervert** です(さいあく)

この会話のTSはKが1ライン目に発した「へんなおとこ」という言葉にある。Mはその言葉の意味が分からないため、1時間後、3ライン目に「わるいひと」として聞き返し、確認している。Kは数分後、4ライン目に、言葉の説明し、漢字とひらがなと英訳を書く。TSはKの発話にあるが、他者であるMがリペアを開始した。Kはその開始を受け、リペアの実行することが明らかになった。

(4)【他者開始・他者修復】

2013/05/02(木)

1　11:38M　　Kさんは**女人**ですか

2　12:12K　　はい、そうですよ！Tちゃんとおなじ、だいがくいんせい

です。Mさんはだんせいですか？**じょせい**ですか？

3　13:58M　　"**じょせい**です。

好きなものは？

わたしはさしみです。

はいゆう (actor)は"

以上の会話は、リペアは他者に開始され、他者に実行される。Mは1行目に「女人」と間違えているが、Kは2行目に「女人」という言葉ではなく、「じょせい」という言葉を使って、質問としてMに返している。自己ではなく、他人がリペアの開始も実行もする例である。

6. 考察

6.1. 日常会話のリペアとの異なり

リペアの開始技法を注目すると、日常会話では非言語的な行動も使用できるため、音声の上昇などのような開始技法が見られるだろう。それに対し、LINE の会話では、文字越しのやりとりであるため、他者にリペアを求める場合、トラブルとはっきり分からせるために、リペアの技法が工夫されると言える。例えば、括弧の使用が観察される。一方、他者開始・他者修復の場合は、トラブルを取り上げずに埋め込まれた形でリペアがなされることが多かった。日本語学習者に対し、リペアを行う場合、間違いを指摘することによって、学習に悪い影響を与えることがあるため、指摘しない場合も多いと考えられる。

リペアの内容に関しては、普通の母語話者と学習者間の会話では、誤用などによる訂正が多いのだろう。それに対して、表記によるリペアの求めもあった。トラブルの解決方法としても、画像の送信やリンクの掲載など LINE の機能を有効に使用することが見られた。

日常会話で見られるリペアの技法および傾向と本調査の結果と比較検討を行ったものが、以下の表 3 である。

〔表３〕リペアの技法および傾向—日常会話に比べて—

項目	日常会話	LINE 上の会話
リペアの技法	音声の上昇など、非言語的な行動の使用	・トラブルとはっきり分からせるために、リペアの技法が工夫されると言える。例えば、括弧の使用 ・トラブルを取り上げずに埋め込まれた形でリペア
リペアの内容	誤用などによる訂正が多い	表記によるリペアの求め
トラブルの解決方法	口頭で説明	画像の送信やリンクの掲載

6.2. 日本語学習への有効性

6.2.1 各タイプの学習機会

【自己開始・自己修復】【自己開始・他者修復】【他者開始・自己修復】【他者開始・他者修復】という 4 つのタイプを行うことによってどのような効果があるかを見てみる。

【自己開始・自己修復】日本語学習者が自分でリペアを開始する場合、メッセージが残っているという LINE の特徴によって、自分が発したメッセージを読み返し、その間違いに気づいたケースである。ここでは、学習者が自己モニターをできている。即時的な返答が期待されないため、メッセージを発信した後、学習者は辞書で調べるなり、自分の書いたことについて確認できている。

【自己開始・他者修復】日本語学習者が自己モニターをでき、負担なく日本語母語話者に問いかけることができる。日本語母語話者の確認要求に対する確認は書かれているため、聞き取れないような問題がなく、たとえ説明が分からない場合でも残っているメッセージを後ほど調べることができている。

【他者開始・自己修復】日本語母語話者が使った言葉をコピーして、それを疑問化して、質問することができる。母語話者は聞かれた質問に対して、媒介語、ひらがな、リンクを

使用して説明することがある。日本語学習者はその回答を新しい知識として得ることができている。また、学習者の母語のチャット用語が使用された場合、日本語母語話者は日本語学習者から何か学ぶことができる。

【他者開始・他者修復】日本語学習者が自分の間違いに気づき、その後、自分もこの言葉を使うことで理解を示している。学習者が母語話者のリペアによってより自然な日本語などを知ることができている。

各タイプのリペアの学習機会を見てきたが、学習者が自分でリペアをした場合、自己モニターが働く一方、日本語母語話者によるリペアの場合は、新しい知識を得ることができることが明らかになった。リペアの部分以外にも学習者は教室の日本語ではない自然な会話に出会うことができる。日本語母語話者による縮約形の使用、常体・敬体を混ぜて使用することなどが見られるのである。それから、学習者は日本語母語話者から単語の文脈なども観察することができる。各タイプのリペアの学習の機会を考えてきたが、４つのタイプの学習の機会は日本語学習者と日本語母語話者に分けて考える場合、学習の機会は以下のとおりである。

〔表４〕各タイプのリペアの会話への参加実態および学習機会

リペアのタイプ	会話への参加および学習の機会	
	学習者	母語話者
自己開始・自己修復	自分の間違いに気づき、自己モニターができ、努力して自分でそのトラブルが直せる	文法的なトラブルはないが、誤字などがあった場合、自己モニターができ、相手によりよく理解してもらうため、リペアがなされることがある
自己開始・他者修復	自分の間違いに気づいているが、自分では直せないため、母語話者にリペアを要求する	母語話者として、求められた質問に対して、返答する。
他者開始・自己修復	母語話者が発することに対して、語彙などが理解できない場合、リペアを開始する。説明を受けることによって新しい知識を得ることができる	学習者が発することに対して、学習者の母語にあるチャット用語などが理解できない場合、リペアを開始する
他者開始・他者修復	訂正されたものを新しい知識として得ることができる	学習者の間違いに気づき、自然な日本語に直すように努力する

6.2.2 リペアへの参加による学習

リペアを様々な活動に喩えてみると、自己開始・自己修復、自己開始・他者修復、他者開始・自己修復、他者開始・他者修復という４つの活動に分けることができる。すべての活動に参加するグループの学習者は学習の機会も与えられ、母語話者との良好的な関係を構築することができ、日本語学習につながるのである。母語話者も学習ができるという点

からも、多くのリペアに参加したほうがより学習の行動を理解することができるだろう。

LINE の気楽に会話ができることや送信したメッセージを簡単に確認することができるという長点から、参加者達がより簡単に会話に参加することができると考えられる。リペアを開始することもさほど負担を感じないのではないだろうか。

また、LINE を使う場合は、その助けをより受けやすい。母語話者がトラブルを解決する際、リンクの掲載やひらがなの使用など、日常会話では見られない解決方法を使用することがある。この方法によって、学習者がより理解することができ、解決されたリペアも残っているため、後ほど自分で調べることができる。

6.2.3 日本語教育への応用

LINE 上の会話を調査した結果、チャットを継続的にすると、学習者が自己モニターをできるようになり、相互的な学習もできるというメリットが分かった。日本語母語話者、あるいは上級日本語学習者に協力してもらいながら、授業の活動として、学習者に LINE を使用させ、それに関する感想、自己評価や学んだことを書かせるのもいい方法である。2 人の参加者ではなく、複数の学習者が入ってやりとりをさせることも考えられる。日本語母語話者ではなくても、学習者同士が目標言語でコミュニケーションすることによって、日本語を上達させることがあるのである。

7. おわりに

リペアを中心に LINE 上の会話を分析した結果、リペアの種類には 4 つあり、リペア連鎖に他の話題が入ることもある。また、LINE 上のリペアは、例えば、解決方法としてリンクを掲載することがあり、これは日常会話のリペアの解決方法では考えられない。LINE を使用する場合の学習を考えた場合、様々な点で有効であることが分かった。例えば、自己モニターができ、他にも母語話者から様々な新しい日本語の知識を得ることができる等である。また、リペアへの参加によって、日本語を学習することができる。LINE はリアルタイムであることがセールスポイントになっているものの、メッセージが同じ画面に残っているため、時間帯や空間に関する制限がない。このような機能によって、容易にリペアを開始することができ、母語話者によるリペアの実行もリンク掲載など LINE の特徴を有効に使用されることが多いため、学習者が容易に理解できることも長所である。

本研究では 3 ヶ月間、日本語学習者と日本語母語話者間のデータを集め、リペアの特徴を明らかにした。LINE を使うことによって、様々な学習効果を検証してきたが、時間と場所が限定されていないことは本研究の限界である。本調査では時間を決めていなかったため、参加者が返答せずに、会話がうまくいかないことがある。すぐ返信しなければならないという負担がないため、いつになっても返信しないという参加者もいた可能性がある。また、LINE による会話は、日常会話のように、相手の態度が観察できないため、相手が理解できているかは確認できなかった。

本調査では、リペアを中心に考察したが、LINE の特徴はまだ多くあり、未だ研究対象に取り上げられていないことは事実である。より多くのデータを集めて、様々な観点より分析を行う必要がある。さらに、日本語教育への応用を考える場合、LINE を実際に教室

の活動に取り上げる試みも欠かせないのである。このような試みを行う際、参加者の設定、時間の決定、話題の提示などのような様々な工夫が必要となるだろう。

参考文献

H.サックス/E.A.シェグロフ/G.ジェファソン西坂仰訳（2010）『会話分析基本論集—順番交替と修復の組織』,世界思想社

細田由利（2003）「非母語話者と母語話者の日常コミュニケーションにおける言語学習の成立」『社会言語科学』,Vol.6No.1,89-98,社会言語科学会

松井聖一郎（2004）「韓国朝鮮語教育における「チャット」の活用」『言語文化』, 7,157-166, 同志社大学言語文化学会

LINE 株式会社広告事業グループ広告事業部（2013）『LINE 2014 年 1-3 月　媒体資料』

González-Lloret,M. (2011) "Conversation Analysis of Computer-Mediated Communication" *CALICO Journal*, 28(2), 308-325

Hutchby,I.・Wooffitt.R（2008）*Conversation Analysis*, Polity

（スワンナクート・パッチャラーパン、筑波大学大学院修了、nongtib@hotmail.com）